



▲いかにのおすしが子供たちを見守ります



▲青色のジャンパーが、警察協助員の証

校門前にお寿司屋さん？

「光明小学校の校門前に、いかにのおすし、
ができたらしい」との噂を聞いた。しか
し、寿司屋さんできたという話は一度
も聞いたことがない。興味を抱いた私は、
小学校を訪れた。

校門についたものの、どこにも寿司屋
さんは見当たらない。代わりに目に映っ
たのは、大きな大きなタワー。色とりど
りのひらがなで「いかにのおすし」と書か
れていて、大部分は木でできていた。

高さはおよそ3mほどで、手足のよう
に取り付けられたパーツと頭部の冠が、
まるでいかのような。

後から詳しく聞いてみれば、いかにのお
すしとは「いかにない」「のらない」「おお
ごえをだす」「すぐにげる」「しらせる」
という、子供たちが不審者に遭遇したと
きの心得を、頭文字をとって覚えやすく
標語にしたものであった。

地域の知恵と技術の結集

巨大なタワーに圧倒された私は、タワ
ーを作成した警察協助員の会長を務める

岡部博忠おかべひろたださんに話を伺うことにした。

岡部さんは、光明小学校のすぐ近くに
住んでいて、普段から警察協助員として
ボランティアで子供たちの登下校の見守
りをしている。

「光明小学校の子供たちは特に元気です
から、大きな声であいさつを返してくれ
ますよ」

警察協助員は天竜区内に20人。ある日
の話し合いで「いかにのおすし」のタワー
を作ったかどうか？という案が出
たそう。

「ちょうど光明小学校周辺で不審な男に
子供が声を掛けられることがあったし、光
明小学校の校門前に作ったらいいんじゃないか
という話になってね」

それから、警察協助員の皆さんの力を
結集して、タワーの制作が始まった。材
木業をやっていた岡部さんが木を調達す
れば、板金業のメンバーが板金を調達す
る。

時間があれば岡部さんの家の倉庫に集
まり、少しずつ作業を進めていった。

「大変だったこと？うーん、思い浮かば
ないですね。みんなで楽しんでつくりま
したから。デザインも決まりがないから、

みんなで意見を出し合ってたね」

完成したのは、発案してから2、3カ月
が経過した12月。光明小学校では、完成
発表会が開かれた。

「完成発表会では、代表の児童から「い
かにのおすしを見て、何かあったときには
落ち着いて対応したい」と言ってもらえ
たんです。とても印象に残っていますよ」

心のもった、いかにのおすし

「子供たちには、とにかく事故や事件に
巻き込まれずに、安全にすこやかに育っ
てほしいですね。うちの窓からは、光が
丘中学校が見えるし、家の前は昔、登下
校の道だったから、地域の子供たちには
愛情が沸いてね。地域全体で子供たちを
見守ることが必要だと思うんです」

子供たちの話をする岡部さんの目は、
とても優しい。子供たちが少しうらやま
しく思った。

子供たちが元気に通う光明小学校の前
には、いかにのおすしや、さんではなく、
子供たちに対する優しい思いと、地域の
人たちの知恵が詰まった、味のある、い
かにのおすしタワー、ができていた。

暮らしが見える。感じる体温。
Tenryu + Plus



**地域全体で見守ることが
必要だと思うんです**

「味、のある暮らし case.6 「小学校にできたお寿司屋さん」